

2021年9月7日 常念岳      メンバー：朝倉

常念岳へ前常念を越えて登りたいと思った。露の世は露の世ながらさりながら 一茶三俣から常念岳へ登るルートは大きく三つに分けることができると思う。登山口から樹林の中を延々と続く九十九折の急登。いい加減飽き飽きしてきたころ勾配が緩くなって樹林で展望はきかないがのんびり歩くことができる。最後の急登を登りきると樹林帯を抜け出て森林限界を超える。そこからは花崗岩とハイマツのミックスとなり展望が開けそれが山頂まで続く。

森林限界を超えるときつい登りに変わらないが展望があるので気がまぎれる。ルート上に現れるクロマメノキの熟した実を時々つまんだりしながらへろへろになって前常念へたどり着く。今日は長い工程だからゆっくりゆっくり行こうと歩き出したが、傍らで励まされているような妙な感覚があって、そのためかどうか前常念へは予定コースタイムより1時間ほど早く着いた。一休みして山頂へ。勾配が緩くなるので若干ゆとりを取り戻して。

山頂からの展望はまずまず。穂高、槍が大きい。雪がないのは寂しいが。八ヶ岳、富士、南ア方面は所々雲のかたまりはあるものの山座の同定はできる。北は雲もなく白馬、鹿島、剣、立山、薬師、鷲羽、黒部五郎とひろがっている。アサギマダラが青空に透ける。新鮮なキベリタテハも来た。穂高の方向から鷹が現れ上空を通過していった。

下山路は現れる鳥や蝶を楽しみながらのんびりと行く。前方上空でハヤブサ（あるいはチョウゲンボウか）がホシガラスを襲っている。が チョット変だ。よく見ているとホシガラスがハヤブサにちょっかいを出しているのだった。トビとカラスの関係に似ている。ハヤブサを追いかけてホシガラスが常念岳の方向へ飛んで行った。後で梨木香歩の本を読んでいたら同様のことが書いてありハヤブサは本気を出せばホシガラスをやっつけることができるが無駄な殺生はせずめんどくせえやつだな一程度に感じているのだろうか。

下山も九十九折が長い。いつものことだがよく登ったものだと思う。翌日は忘れられない日。

他に出会った動植物；ミソサザイ、カヤクグリ、ミヤマカラスアゲハ、クジャクチョウ、ルリタテハ、スジグロシロチョウ、トウヤクリンドウ、チシマギキョウ？、アキノキリンソウ、ひげのチングルマ、ミソガワソウなど

コースタイム；三俣 5：30—前常念 10：00—常念岳 11：20～12：00—前常念 12：40—三俣 16：00